

Kiko

◆ボン◆

気候ネットワーク

〒604-8124 京都市中京区帯屋町 574 番地高倉ビル 305 Tel: 075-254-1011 / Fax: 075-254-1012

〒102-0082 東京都千代田区一番町 9-7 一番町村上ビル 6F Tel: 03-3263-9210 / Fax: 03-3263-9463

E-mail: kyoto@kikonet.org (京都) tokyo@kikonet.org (東京) URL: <http://www.kikonet.org/>

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。
「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

国連気候変動交渉の会場から世界に広がる「ストップ石炭！」



ボン会議が終盤を迎えた22日の朝、世界各国から会議に参加している若者たちの「石炭、やめろ！」という合唱が会場中に響きわたった。このアクションは、米 NGO「オイル・チェンジ・インターナショナル」をはじめとする各国の NGO が共同で行ったものだ。石炭火力発電による大気汚染から身を守るためのマスクをかけ、黒いすすでメイクアップし、ヴァイオリンの演奏に合わせ、英語と日本語で、CO₂ 排出が多いうえに、大気汚染などを通して健康破壊を引き起こす石炭火力発電所に対する資金支援の凍結を求めた。

先進7か国や中国が石炭からの段階的廃止を決断するなかで、日本だけが石炭に固執し、海外に石炭火力発電所を新設するために公的資金を拠出している(その規模、世界第1位!)。ボン会議の会期中に発表された複数の調査報告は、脱石炭に向かう世界の潮流に目をつぶり、唯一の「石炭推進国」として時代に逆行し、国際的に孤立する日本に警告を発している。

このアクションを通して日本の石炭政策の再考を求める世界の若者たちのメッセージは、各国のメディアや会議参加者のSNSを通して世界に広がった。さあ、どうする、日本!?

COP21 事前交渉、最終日～ボンからパリへつながる?・つなげる?～

COP21 パリ会議の準備会合はいよいよ最終日に入った。人間のみならず、地球のすべての生き物の将来がかかっているといわれるパリ合意だが、その交渉はごく一部の人たちによって行われており、しかも非公開…。交渉の経過は、[気候変動枠組条約のウェブページ](#)に随時アップされる作業文書をチェックすることで窺えるの

み。温室効果ガス排出削減や適応、資金などといったテーマ・条項ごとに小グループに分かれて作業が行われているが、その進展の度合いはとてつもなく遅い。例えば、温室効果ガス排出削減のテーマの作業文書を見てみよう。テキストの中の括弧 [] は、ある文言について、まだコンセンサスがないことを示すが、括弧の中にさら

に括弧があり、[[【もはや】[どこの括弧がどこからどこまでを指している、]] [[最終的に][パリで][大臣が]どんな判断をすることになるのか、[さっぱり]わからない状況だ]。パリで大臣たちが決断するための土台となる文書をどう用意するのか。そこに含まれるべきことが含まれるか。すべては、あと1日の作業に託されている。

パリ合意の成功に向けて湧き上がる、さまざまなイニシアティブ

会議室で各国の交渉官がテキストの括弧をどこにどう書くかに頭を悩ませている一方、世界各地ではパリ合意の合意に向けて新しいイニシアティブが次々と発表されている。

- 世界の **41** の企業及び **6** の国・地域が再生可能エネルギー電力 100% 目標を掲げている。
- 世界の **16** の国・地域及び **80** の都市が排出量を 2050 年までに少なくとも 80% 以上削減することを約束している。
- 世界の **20** の国・地域が、自然林の減少を 2030 年までに

止めることを約束している。また、世界の **28** の企業が、すべてのサプライ・チェーンから森林減少につながる商品をなくすことを約束している。

市民社会のムーブメントも盛り上がっている。[11月14日は脱化石燃料のグローバル・アクション](#)、COP21 開幕直前には世界各地で数千万人規模のグローバルな気候マーチが開催される。日本でも各地で、気候をまもる、パリへの行進: [アースパレード 2015](#) が予定されている。さあ、パリ合意の成功のために参加しよう！

日本政府への 10 の宿題【期限：パリ会議前まで】

「政府の皆さん、お疲れ様でした。ADP2-II ボン会議を終えるにあたり、以下の宿題を出します。これらの宿題をきちんとこなして、パリ会議に十分備えてください(Kiko 先生)」

- 【その 1】 NGO とは何かを勉強して約 800 字で作文すること
- 【その 2】 将来どれだけ途上国支援のお金を用意できるのか、ファイナンシャルプランナーに相談しておくこと
- 【その 3】 「再生可能エネルギー100%(RE100%)」の国際研究レポートや分析を調べ、また、「RE100%」を宣言する自治体や企業の数を探ること(※ヒントは Kiko にあります、でもどんどん増えているので注意しましょう)
- 【その 4】 日本が関与する国内外の石炭火力発電所による 2050 年までの累積 CO₂ 排出量を算出すること
- 【その 5】 オバマ大統領に石炭融資をやめるメリットについてイ

ンタビューに行くこと

- 【その 6】 日本の 2030 年のトップ 10 企業、2050 年のトップ 10 企業は何かを想像して一覧表にすること
- 【その 7】 2050 年に向けた長期計画をたて、2020 年から 5 年ごとのチャレンジ目標を模造紙に書いてくること
- 【その 8】 交渉団みんなで、気候変動の悪影響を受ける途上国へ社会見学ツアーをすること
- 【その 9】 2016 年の伊勢志摩 G7 サミットで首相が気候変動についてスピーチする原稿の下書きをつくること
- 【その 10】 徹夜交渉のためにカップラーメンを箱買いし、交渉の最後でフレキシビリティを高めるため、毎日 10 分の柔軟体操をすること

「宿題、サボらないでちゃんとやるんですよ(Kiko お母さん)」

なぜ、わざわざ NGO 締め出しを？－日本政府が引き起こした波紋

会議 2 日目、Kiko は仰天した。日本政府代表の外務省の水越参事官は突然、「オブザーバーに会議を公開することは非効率ではないか？ 外交官なら誰でも公開の場では本格的な交渉ができないことを知っている」と発言し、本当に非公開になってしまったのだ(もちろん、「そうだ、いいぞ」と思いつつ黙っていた国もいただろうが)。18 年間この交渉を見てきた Kiko も、各国が妥協する、交渉の最終盤で非公開になることは十分理解できる。しかし今は「合意しやすい文書」作りの段階。NGO だけでなく、研究者、国際機関などオブザーバー全体に大きな波紋が広がっている。

パリで同じことが起こるのではと懸念の声も噴出している。

このプロセスは、「オブザーバーは交渉の促進を後押する重要なパートナーである」との認識の下で運営されている。NGO は、会議を傍聴することで、批判もしつつ、分析や文言の提案、さらに政府間の立場の調整などの様々な貢献を行ってきた。パリ会議後に対策を推進するアクターとしても、会議に参加することの意義は大きいはず。なぜあえて今？ Kiko は残念だ。奇しくも、水越参事官は外務省の「NGO 担当大使」でもある。いま一度、オブザーバーの役割を再認識して、公開を議長に提案してほしい。

オブザーバー締め出しのおかげで、交渉が大躍進！ (10/22 ECO 抄訳)

交渉から締め出されてどのくらいたっただろう。でも我々にはわかる。会議室内での交渉は著しく進展している！

まず、アメリカが、パリ合意案の中に気候変動の影響による損失と被害を文書に書き入れることを支持し、そのために年間 GDP 比 0.7% の資金提供を約束した。人権についても、サウジアラビアが、ついにその重要性に気づき、文書で人権概念を徹底させることを支持している。オーストラリアはアンブレラ・グループを説得し、温室効果ガス排出削減と長期目標に関して大きな譲歩を引き出した。

ところで、ボン会議の会場の 1 階のトイレが日本政府の交渉官以外使用禁止になったと警備員から聞いた。日本政府は、EU と、

日本、米国やオーストラリアなどの先進国からなるアンブレラ・グループの交渉官にしか使用許可証を渡していないようだ…。

この後の記者会見で、どうやら大きな進展の報告がされるらしい。祝杯をあげよう！ オブザーバー締め出しのおかげで、むしろ交渉に透明性や説明責任が担保され、各国がより前向きになったのだから！ [#KeepUsInTheRoom](#)

Kiko ADP2-11 通信 No.2

2015 年 10 月 23 日発行 執筆・編集: 朝日遥子、井上浩樹、伊与田昌慶、佐藤由美、津田啓生、平田仁子

問合せ: メール iyoda@kikonet.org 携帯+81-90-3557-3610